

多様な武道等指導の充実 武道推進モデル校 事例報告

<h3>少林寺拳法・柔道</h3> <p>少林寺拳法経験者の実技を見学し、体験することで武道への興味をもたせ、柔道の授業につなげる。</p>	<p>岩国市立麻里布中学校</p> <p>電話番号 0827-22-2234</p> <p>メールアドレス marifu-j@edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp</p>
--	--

●実践研究のねらい

- 少林寺拳法の実践から柔道の授業へとつながる複数種目の武道指導を計画し、実際に外部指導者の実技を見学することや直接学ぶことを通して武道に対する興味を高め、学校での武道の授業（柔道）へスムーズに取り組めるようにする。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●多様な武道の指導モデル 第1学年（3学級105名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
種目	少林寺拳法		柔道										
学習の流れ	オリエンテーション・基本動作	対人的技能の練習	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）										
			準備運動					準備運動、基本動作と受け身の練習					学習のまとめ
			基本動作の学習	学習のまとめ	基本動作の学習	固め技の学習		投げ技の学習					
			受け身の学習		受け身の学習								
			対人的技能の学習										
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）													

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒の興味を引き、生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の理解度を高めるための段階的な指導の工夫
簡単な体さばきから習得し、高度な技への実践に移ることで生徒の理解度を高める。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 習得する技の動きに即した準備運動
外部指導者より、習得する技の体の動きを使う準備運動を音楽に乗って行い、楽しみながら技に親しめる時間を設ける。
- 単元を通して自分の安全を守るための知識や技の習得
少林寺拳法・柔道を通して、相手を倒す技能の向上ではなく、自分の身の安全を守るための技能を習得するという生徒の意識を高めさせるとともに、生徒が安全に取り組める工夫をする。

●授業の様子



【 外部指導者による実技演習 】

授業の初めに外部指導者の実技を見学することで、少林寺拳法や武道への感心を高めるようにした。



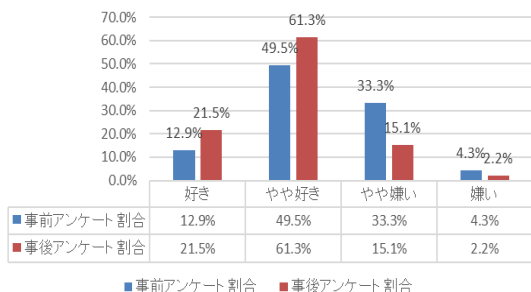
【 対人的技能の練習 】

学習する形態を2人組とし、繰り返し技能の習得に取り組めるようにした。生徒同士で教え合いながら技に親しめるようにした。

●生徒の意識の変容

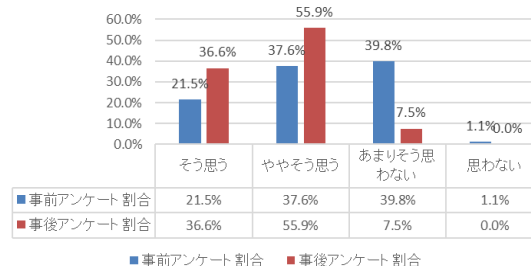
1 武道をすることは好きですか。

1 武道をすることは好きですか。



2 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。

5 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



●生徒の感想

- ・あまり武道は好きではなかったけど、技ができるようになったら楽しくなりました。こういう機会があって良かったです。
- ・もっと技を覚えて実践してみたいし、今日学んだことをどこかで生かしたいと思いました。

●成果と課題

- 少林寺拳法の指導においては、外部指導者による指導が効果的である。専門的な知識や高度な技を習得しているため、生徒にもわかりやすく理解しやすい内容であった。また、安全に授業を行うことができという点でも効果的であると感じた。今後は、教員研修を進めるとともに、外部指導者による専門的な指導を行うなど、指導計画を検討していく必要がある。
- 今回は少林寺拳法の授業が2時間だったため、より深い内容を学習することができなかった。あと2時間程度増加できると、より深い学習ができ、生徒の興味関心を高めることができると感じた。

